

循環器科開設20周年

何ができるか (What can I do?) ではなく、
何が本当に必要か (What should I do?) を考える医療を

近森病院副院長
(診療担当)
兼 臨床検査部顧問
兼 内科部長

浜重 直久

20周年記念式典で
挨拶に立つ浜重副院長 ▶



1988年に近森病院に着任して20年になりますが、節目の年に、冠動脈インターベンション (PCI) 3,000症例 (延べ5,000件)、心臓関連手術 1,000症例を達成できて、たいへん嬉しく思っています。

当初は内科全体でも、医師7-8人、病床数60床、年間入院数1,000例足らず

【図1】近森病院内科新入院患者数



でしたが、現在では内科医25人、病床数200床、年間入院数は5,000例近くを診療しています (図1)。

‘89年に冠動脈造影 (CAG)、‘90年に

PCIをスタートしたころは、それぞれ年間100例以下、10例以下でしたが、しだいに症例数も増加し、最近では、循環器科11人、心臓血管外科4人で、年間CAG 1,400件、PCI 600件、心臓関連手術150例以上を数えています。

当初より、専門領域に特化することなく、**general physician**として、何が**できるか (What can I do?)**ではなく、何が**本当に必要か (What should I do?)**を考える医療を心がけてきましたが、これからもこうした姿勢を続けていきたいと思っています。

多くのスタッフを派遣していただいている高知大学・土居義典教授、東京医大・山科章教授、岡山大学・佐野俊二教授をはじめ、昼夜を問わず献身的なサポートをいただいているコ・メディカルや歴代研修医の皆さん、患者さんの紹介やフォローアップに協力していただいている地域の先生方に、心よりお礼を申し上げます。

これからも、患者さんにとっていつでも頼りになる病院を目指して日々努力していきたく思いますので、ご協力をよろしくお願ひいたします。

(※次ページへ続きます)

静かな朝



近森 正幸

少し日差しの強くなった四月末、日曜市の途中にある、喫茶ラメールで、妻と一緒にブルーベリーとチーズのトーストサンドとカフェオレの少し遅い朝食をとった。道を歩くとちょっと汗ばむようになってきたが、ラメールのやや薄暗い、ヒヤッとした空気が気持ちいい。

しばらく休んでいると、馴染みのお客さんが、深紅の牡丹のつぼみのようなバラを持ってきて、ことさら声をかけるでもなく、店の奥さんに

渡した。そんな自然でさりげない感じがいい。そのバラはシャルルマルカンという原種に近い種類で、もう10年もこうして持ってきてくれるそうだ。

BGMにはシャンソンが静かに流れ、花が活けられ、マスターは黙って仕事をしている。いつもと同じ空間に、いつもと同じ時間が流れる。それが何より心を落ち着かせてくれる。

ふと開かれたドアの外を眺めると、お店を開けようと若い女性が真っ白な暖簾をかけ、ガラス窓の前に淡々と簾をかけている。

初夏のじつに気持ちのいい気候があって、こんなにも自然な時間をつくりだす人たちがいて、静かな時間の流れる空間が、この高知の中心街にあることに驚いてしまう。そんな時間と空間の素晴らしさと、それを味わえる幸せをつくづくと思う。

理事長・ちかもり まさゆき

冠動脈インターベンション (PCI) 3,000症例を振り返って

循環器科部長
川井 和哉

冠閉塞は激減しました。これでPCI後も安心して帰宅できるようになりましたが、今度は数カ月後に20-30%の頻度で起きるステント内再狭窄が問題となりました。

しかし、2004年8月から日本でも薬剤溶出ステントが使用可能になり、再狭窄も激減しています。当院においても、再狭窄率3.5%、再PCI率2.9%と非常に良好な成績であり、最近では積極的に薬剤溶出ステントを使用しています。これからは、新しい病変の進行を防ぐため、禁煙や適正体重の維持、高血圧・コレステロール・血糖のコントロールなどが、ますます重要になってきます。

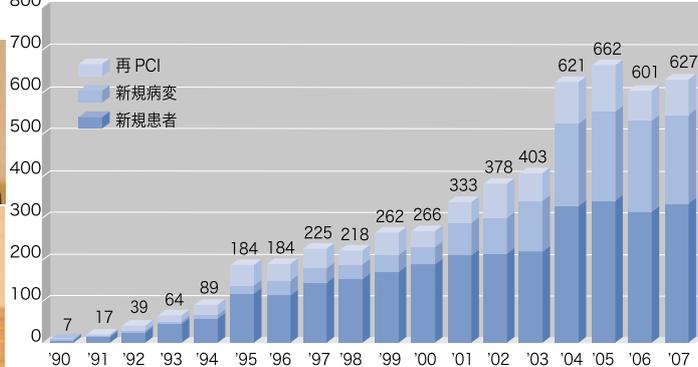
浜重、楠目両先生からの指導、窪川渉一部長、関秀一科長、要致嘉科長の着任などスタッフの充実、カテーテル検査室の増設や最新機器の導入、そして、多くの患者さんのPCIを経験することによりレベルアップし、中・四国地区でも有数の症例数を誇る病院に成長することができました(図2)。

スタッフを派遣していただいている高知大学の土居義典教授、東京医科大学の山科章教授、診療にご協力くださる地域の先生方、歴代研修医やスタッフたち、救急隊の皆さん、一緒にチーム医療を支えてくれている当院の仲間たちに心から感謝しています。今後とも患者さんや医療関係者、そして何よりも院内のスタッフに信頼される医療を続けていきたいと思ひます。ご支援をよろしくお願い申し上げます。

写真はいずれも5月25日開催の20周年記念式典から。左は式典後に勢揃いした循環器スタッフ



【図2】PCI(冠動脈インターベンション)件数



▼ご祝辞を頂戴しました

高知大学の土居義典教授



鍼灸師メックの吉原馨社長



2008年2月、当院で初めての冠動脈カテーテル治療(PCI)を受けた方が、3,000名を超えました。他の冠動脈病変、再狭窄や新しい病変のため2回以上PCIを受ける方もおり、PCI件数はすでに5,400件を超えています。

1990年5月、当院で初めてのカテーテルによる冠動脈治療(PCI)が施行されました。楠目修先生(現医療法人士佐楠目会理事長)が小倉記念病院での研修を

終えて帰任し、浜重直久副院長とともに開始しました。私が近森病院に着任したのは1991年10月であり、PCI15例目から一緒に治療に当たることができました。

最初は、いわゆる風船治療(POBA)のみでした。冠動脈を拡張した後に突然閉塞する急性冠閉塞という合併症が数%に生じ、PCI後も1-2日間は心配でした。

1995年からステント(金属の筒)を冠動脈に留置する方法が可能になり、急性

第50回記念

地域医療講演会のお知らせ

代替医療のまなざしから見た現代医療

2008年4月25日(金) 午後18時30分～ 高新文化ホールで
医療のデザイン室・代表プランナー 澤田祐介先生をお迎えして

澤田先生は、長年救急医療の中心的な活動をしてこられ、東海大学救急医学講座教授や救命救急センター所長を歴任、2002年には長野県の東部町医療福祉センター長になられ、地域に溶け込んだ医療を展開されました。その頃から代替医療の必要性を痛感され、現在は種々の代替医療と患者さんをつなぐ医療のデザイン室代表プランナーとして活躍されています。

先生は、『チベット死者の書』や『トムテ』などを引用され、我々はどこから来たのか、我々はどこへ行くのか、と問われ、霊的な存在の重要性を強調されています。そして、代替医療として心身相関(二つが密接に関係を持っていること)医療の導入が必要で、

多元的で多様化した現代社会においては、西洋医学的な心と身体は別の物であるという発想ではなく、東洋医学的な“心と身体は不二(実質は一体である)”という発想が大事であると強調されました。

現在において西洋医学は最強の医学ではあるが、代替医療は加齢に伴う慢性疾患に効果があり、患者さんひとり一人の悩みを解決する、実践的な対応をする代替医療がこれから求められる時代になるのではないかと、大きな時代の変化が来るのではないかと締めくくられました。会場には158

▶左に講師を務められた澤田祐介先生、右が筆者の近森正幸院長

▼満員の会場では、メモをとる熱心な聴衆も多数見受けられた



名もの参加をいただき、熱心にメモをとる人など、多くの聴衆を魅了していました。(近森病院 院長 近森正幸)

【お詫び】前号の昇格抱負記事で外科の八木健先生の肩書きの誤植がありました。正しくは八木健外科部長です。(編集室)

スタッフ向けNST 料理教室の開講

つまり

Chikamori ☆ Kitchen

サッと簡単に美味しいものを作っちゃいましょう!

本院臨床栄養部主任 内山 里美



料理をする時間が取れない。食材を買っても使いきれない。結局外食ばかり……など、忙しいときほど、きちんと栄養は取りたい!と思うのに、料理からは遠のいてしまう…のが現実ではないでしょうか。

また外食が多いとどうしても摂取する栄養素は偏ってきます。こんなときこそ、元気の源である「食事」を大切にしたいもの。そこではじめたのが、料理教室 Chikamori ☆ Kitchen です。Chikamori ☆ Kitchen はいわば、スタッフ向けの「NST」。

私たちと簡単にできるおいしい料理を実際に作ってみませんか? 躊躇しがちな料理も、ちょっとしたコツがわかると案外簡単に、効率よくできるものです。苦手意識が薄れると、きっと料理も楽しくなるはず。

体にやさしい食生活を実践しましょう! 料理のし方が分からない方、忙しくて料理をする時間のない方、また一方で、料理のレパートリーを増やし

たい方など、気軽にご参加ください。

なお、次回は6月10、11日の両日に開催予定となっております。



院外エッセイ

朝の恵みの三千歩

栄養教諭 北村 和子

昭和34年1月11日生まれ。昭和56年より学校給食の栄養士。現在、香美市立楠目小学校栄養教諭として、こども達の健康教育や学校給食の管理・運営に携わっている。



気がつけば五十歳を目の前に、なんだか身体の切れも悪くウエスト周りは帯を巻いたよう。「これではいけない!」と、一念発起して始めたのが「ジゲン」(わが家の愛犬)と夫とする朝の散歩です。

コースは、家を出て田畑を巡る三十分。犬用携行トイレと懐中電灯を持ちスタートです。ジゲンは朝のトイレがつかえているのか、どんどん引っ張って、こちらが息を整えるのが大変。程なく早歩きになると、周辺の景色を楽しむ余裕も出てきます。早朝の金星はひときわ輝き、ラッキーなら流れ星をお願いすることもできます。遠くに点灯しながらゆっくり流れていく赤いヒカりは飛行機です。

下田川にさしかかると、鴨の親子におはようの挨拶。昨年生まれた愛くるしいヒナ達も、今ではすっかり一人前です。二月の寒い朝には不思議な光景に出会いました。まるで暗闇の畑に現れた霧氷のようです。立ち枯れのコスモスの茎のもとから染み出した水が薄い氷の膜になって張りついたのでしょう。生まれて初めて見る風景でした。広域農道を手前

に折り返し、帰路に着く頃には、身体もポカポカしてきます。歩きながら、時々お腹を引っこませたり、背筋を伸ばしたりすることも忘れません。そして、夫とおしゃべり。毎日の出来事や、子どものこと、家族のことなどを話していると、ジゲンが急に小走りになります。運動の後の朝食がお目当てなのですね。東の空が薄明かりになってくると朝の三千歩の散歩も終了です。

半年間の朝の運動でウエスト周りが減ったとも思えませんが、冷え性の改善や気分転換に一役買っていると実感しています。三日坊主の私がこの散歩を続けられるのは、夫のおかげですし、季節折々に変化する風景のおもしろさを感じる楽しみがあるからでしょう。

朝食には、人参・りんご・ショウガ・蜂蜜で作ったジュースを飲み、「今日も一日頑張るぞ」と気合いを入れて毎日出勤しています。

※北村和子先生には、数カ月前、まだ冬の寒さの残る頃に原稿をお預かりしておりましたのに誌面の都合で掲載が初夏になりました。ごめんなさい。

第1回(08.4.22,23)のおススメレシピ



■ふわっとでしかもトロツとした「フワトロ☆オムライス」の作り方のコツ

①チキンライスは炊飯器に米と炒めたまねぎ、鶏もも肉、ケチャップ、コンソメキューブを入れて炊くだけでOK。

②ソースはホールトマトとケチャップとガーリックパウダーを煮詰めて塩コショウで味を整えて出来上がり。

③チキンライスの上のにのせるオム(卵で包んだものの意)は生クリームを少し多めに入れて、空気を入る感じで卵を泡立てる。あとは、焼いたときの火加減だが、この説明が意外とムズカシイ!とにかく実際にやって慣れて欲しいので、ぜひ料理教室にもご参加を!

リハビリテーション 実用篇

2008年4月19日(土) 高知県民文化ホール グリーンホールで
近森リハビリテーション病院 今井 稔也

公開県民講座をリハビリテーション科が担当することとなった。県民の方々にリハビリについて詳しく話す機会は初めてだったので、さてどうしようか?その準備の為に半年ほど前から公開講座の世話人会を発足した。病院入院中も、自宅に帰ってからも必要なリ

ハビリは続くので、病棟や訪問など種々のセクションに所属するメンバーに集まっても

らった。「さてどんな内容にしようか!」という所からスタート。皆各部署で活躍しているスタッフであり、リハビリに対する熱い思いのあるスタッフばかりである。思い思いに意見を出しながら喧々諤々!毎月集まっては話し合い、多くの方々に伝えたい内容がまとまったが、勉強形式だけでは伝わらない。演劇が必要であり、一番身近になり得る費用や制度の部分にこだわってシナリオを練った。また体を動かし、明日からの健康を保てる



▲会場では実際に身体を動かす体操もあった
▶高知ケーブルテレビが取材してくれた



講座終了後には恒例の関係者全員で記念撮影



▼講演担当者が会場からのたくさんの質問にも応じた



ような内容も盛り込もうと決めた。

4月19日いよいよ当日である。500人入れる県民文化ホールだ!皆どれぐらい入ってくれるだろうか。と不安はあったが、始まる頃に席も埋まり、400名を越える入場者数で大盛況!大きな失敗もなく大成功!!あとは中身。来てくれた方々が「なるほど!」となってくれればだが、患者さんのご家族から「よかった、勉強になった」と言っていたら、ホッと胸をなでおろす今日この頃であった。



川添 昇
画 臨床栄養部部長 吉田 妃佐

歌舞伎の十八番「助六」をご存知の方も多いただろう。それにちなんだ助六寿司を大学時代、東京に住んでいた頃食べてびっくりしたことを憶えている。お稲荷さんと干びょう巻がセットに入っている。お稲荷さんには具は一つも入っていない、巻き寿司の具は真黒いかんぴょうだけ。淋しい思いをしたものだった。それが今では、小振りの甘くて濃厚な揚げとかんぴょうがなつかしい。鮎屋での締めは必ずワサビを効かせた干びょう巻と決めている。

そこで、今回は巻き物の代表格として、

鉄火巻

を紹介したい。最近「手巻き」と称する「手抜き」が横行しているが、しっかり巻き簾を使った細巻き仕様である。鮪は中トロを使うともちろん美味しいが、私はむしろシンプルな赤身が好みだ。(牛肉も赤身派)

〈材料と作り方〉

- ①ごはんを酢と塩(適量)、好みで白ゴマ、しょうがのみじん切を入れ、さましながらザクザク混ぜて寿司飯を作る。
- ②鮪はサクで買って来て1.5cmぐらいの大きさを海苔の長さに切る。
- ③巻き簾に海苔を置き、寿司飯を薄く延ばす(米粒が重ならないような薄さに!)
- ④鮪を置いてワサビを乗せ、きっちり巻き、一口大に切り揃えて白っぽい皿に円形に揃べる。カンタンに出来上り。

〈食べてみる〉

ぜいたくして中トロでも作って赤身と食べ比べてもいいし、まだ試していないが、アボガドと赤身を合わせてもいいかもしれない。まずスパークリングワイン(720ml 1,000円ぐらい)をグビりと飲み、おもむろに1個パクッと放り込む。かすかな酸っぱ味と鉄さび(ヘモグロビン?)の匂いととも旨味がジワッと拡がり、わずかに鮪にまとわりついた飯の味と海苔が甘みをかもし出す。素早くスパークリングを飲んで口をグニグニさせながら、美味さを堪能する。その日は、ドロメ(ポン酢)でスタートし、アスパラガスや空豆、きびなごなどの天ぷらの揚げ立てを食し、冷えた地場のトマトスライスで口を冷やし、締めは鉄火巻きという具合だった。日経新聞連載の小泉武夫先生の最近のコラムは丼物シリーズだが、同じご飯を使ってもこの鉄火巻の上品さにはかなわないと思う。



最高のコミュニケーション 平野 裕子(右)

近森病院 理学療法科

昨年末にあった忘年会の余興後に、先輩方とハジケで撮った一枚です。余興の醍醐味は、職場の仲間と仕事の後に夜な夜な練習し、本番を迎えることで、仕事以外でも共に達成感を味わえることだと思います。

私は昔から踊ること、歌うことが大好きで、新年会・忘年会の時期になると人一倍はりきってしまいます。これからどこに出発するかわかりませんが、その時は声援の方をよろしくお願ひします。



家族看護の素晴らしさを実感



オフには皆で海へも行きました

CCU 竹内 さと



集中治療病棟のスタッフと記念撮影してきました。写真いづれも私は右端

浦添総合病院は、病床数 302 床の地域医療支援病院で、ICU (集中治療病棟) に勤務させていただき、**家族看護のすばらしさ**を再認識しました。

ICU に入室する患者さんは重症かつ緊急で病院に運ばれることがあり、家族が患者さんの病態や現状を受け入れられず困惑することが多々ありました。

そんな家族に対して、スタッフは家族の話を良く聴き、面会時には必ず、家族と会話をし、タイムリーな情報を伝え、家族の現状の受け入れや理解状況を把握し、時にねぎらい、励まし、必要時には医師から病状説明を行なうなど、じつによく配慮がなされていました。そうすることで、ご家族の表情は穏やかになったり、現状を徐々に受け入れられるようになったということもありました。

また、最悪死に至ったとしても、家族の意向や患者さんの生前の思いを少なからず、治療やケアに反映できたケースは、家族の表情や受け入れが良かったように思います。

また、研修中、スタッフは本当によくしてくれました。色々な患者さんを受け持つことができましたし、みんなでサポートし、育ててくれました。分からなければ、わかるまで教えてくれたり、勉強会も開催してくれました。

また、患者さんの病態やケアで悩んでいればカンファレンスをして納得できるまで付き合ってくれたこともあります。

一年間研修させていただいてご迷惑をかけることも多々ありましたが、仕事だけでなく、人として学んだことも多く大切な一年になりました。浦添総合病院で学んだことを、近森病院で生かせるように日々努力し、頑張りたいと思います。

新シリーズ★近森会交友録エッセイ

医療ビッグバンから十年……

医療経営環境研究所 代表 仲野 豊

1959年3月神戸市生まれ神戸育ち。大阪芸術大学映像計画学科卒業後、マルチ映像スタジオ、広告代理店勤務を経て、医療・医薬品企業専門の経営コンサルティング会社齋ユート・ブレインに入社。コンサルティングや講演活動、各種情報媒体作成、書籍執筆、厚生労働省の委託調査にかかわる。専務取締役を経て2005年に退職し、齋トータルメディカルコンサルタントに移籍。2007年12月、医療経営環境研究所を設立。http://friendly-field.com 甲子園球場のある兵庫県西宮市在住。



私が初めて高知県を訪れたのは1980年の夏のこと。当時は本州と四国が橋でつながっておらず、友人の車で神戸から岡山県に向かい、児島港からフェリーに乗って高松から国道で大歩危小歩危のアップダウンを経て高知に朝方に着いた。当事、高知医療学院に通うために下宿していた高校の後輩が、夏休みに入るので友人と迎えに行ったのが最初であった。暑い下宿先と桂浜の記憶だけが残っている。

二度目は1991年の春に薬系の学会を株式会社ユートブレインの社員として取材に訪れた。この時、学会事務局に依頼して宿泊先となったのが、今の近森病院第二分院辺りにあったビジネスホテル。今になって近森会との不思議な縁を感じている。夜間に次々とやってきた救急車のサイレンは今も耳に残っている。

そして、1998年の春「高知県の医療業界に今後起こりうること」という演題で、ある講演会に呼んでいただいた。ちょうど、医療ビッグバンとか言われて、医療法で地域医療支援病院制度が創設され、質の標準化としてクリティカルパスが一部の病院で動き出した。健保法では外来で薬剤1剤につき〇〇円という医療制度改革の真っ只中だった。このような医療制度が高知の病院を大きく揺さぶっていくだろう、という話をしていたところ、会場最前列で熱心にメモを取られていたお二人がおられた。

講演直後にそのお二人から出された名刺には、「近森病院 院長 近森正幸」と「近森病院 管理部長 川添 昇」とあった。翌朝、空港バス乗り場まで歩いていく途中、病院近くの道でばったり川添管理部長に出会い、病院の案内をしていただいた。

あれから、十年余りの年月が流れ、今では数え切れないくらい高知にお邪魔している。近森会の皆さんを始め、多くの土佐の方々とお会いすることが私の刺激にもなっており、とても感謝している。

仕事柄、全国各地を行脚しているが、高知は、人も自然も料理も日曜市も満喫できる私のお気に入りの場所の一つだ。

新シリーズ ● 近森会グループが日頃お世話になっている県内外の方々から、折々にエッセイを寄せていただけたらと存じます (ひろっば編集室)

看護部 キラリと光る看護

宝!!の中堅ナース

その37

看護部長 梶原和歌



近森会看護師の在職構成は就職1年目の新人が16.2%、2年目と3年目ナースが21.5%、4年目以上が62%でした。年齢が25歳以上で近森での経験が4年以上というベテランナースの集団を“宝の中堅ナースたち”と思っています。

仕事・結婚・育児などライフサイクルの真っ只中にある彼女らが、仕事も生活も充実させ退職しないで続けられるためには何が大切でしょうか。24時間託児所・フレックスタイム雇用・進学のための奨学金制度・認定をとるための日々の保証や推薦制度・院内中堅看護師研修の充実など色々あります。

しかしもっとも重要なことは「患者さんと関わり触れ合う看護のやりがい」を共感できる仲間どうしの人間関係です。看護師は人との関係性は本来得意なはずなのに、医療安全への緊張や指示の多様複雑さと時間に追われ、仲

間への配慮やマナーが適切に行えず、知らず知らずのうちに消耗し合っていることがあります。近森会の方針は職員個々の能力を花開かせ、患者さんにお返ししていくことだとしています。経営側のサポートがあり、仲間同士の理解と協力があればいろんな夢が叶はずです。

本院3東病棟の森本主任も夢を叶えたひとりで就職・昇進・結婚・通信で大学卒業・大学院に学び「病棟看護師が実践する地域医療連携の現状と連携促進要因」というテーマで修士論文を書き現場に戻ってきました。復帰2カ月目、日々の生活は夜勤ありリーダーありでみんなと変わらないシフトの中で退院調整と地域連携の質向上を模索しています。みんながワーク・ライフ・バランスの充実で幸せになりたいものです。

健康管理センターかわら版

「アンチエイジング」

～楽しく歳を重ねること(2)～

こんにちは。みなさんは楽しい休日を過ごしていますか？5月の連休は、私はマラソン大会に参加してきました。薬剤部、栄養部やリハ部の若者達と一緒に砂浜を裸足で走り、楽しんでできました。



さて、今回は心と身体のエイジングについてお話しします。「若く見える」というのはとても素敵なことです。ではなにか秘訣はあるのでしょうか？

若く見られる方に聞くと殆どの方が「特別何もしていない」と答えます。若く見せようと意識を持ってないことが多いようです。つまり、年齢や加齢を過度に意識せず、年齢で自分の行動を制限しないことによってその結果、活動的で若々しい行動を続けている。若く見えるというのは、心の状態が外見や行動に表れた結果論なのです。

物事を前向きに捉えることがエイジングの近道かもしれませんね。今の自分が興味を持っていることを楽しんでみる。最近、気になっていたことをやってみる。そんな身近なところから取り入れることもお勧めです。楽しく歳を重ねていきましょう。

今回は薄着になる季節到来！気になるお腹周り。「メタボリックシンドローム」についてお話していきたいと思います。

(健康管理センター保健師 野口由美)

聴診器

“我が家の水モノ”

切り収集、山登り、熱帯魚、海水魚、山野草、水泳等々色々と熱中してきました。

今、続いているのが水泳とメダカ達水モノです。現在、メダカ、ダルマメダカ、

土佐金、タナゴを飼っています。飼育は全くの素人で、大きな変化を与えず話しかけたり、やさしく見守る程度です。

春は産卵のシーズンでホテイアオイ(水草)に産み付けられた卵を毎日チェックします。夏は30センチの水槽を部屋の中に置き食事をしながら眺めます。冬は時々ご機嫌を伺いながら春を待ちます。

大変なことといえば水を交換する作業で、長靴をはき、腰にはコルセットを装着して行きます。人に見せられる格好ではありません。しかし交換後、澄み切った水槽でスイスイ泳ぐ姿に大満足しています。メダカに癒されているなあと実感する時間でもあります。

新しい春が巡るたびに愛らしい一員が増えてくれるのを楽しみにしています。

(地域医療連携室師長 日浦利恵)



シリーズ☆趣味 落語

患者さんの笑顔にもっと触れたい…そんな思いのメンバーが集まり、このたび「落語部」を立ち上げました。現在近森亭一門は師匠のラガー(今井院長)・電柱(PT中谷)・ロールケーキ(PT中山)・稽古(PT橋川)・ハピネス(OT喜多)の5人です。

記念すべき初高座は去る3月16日(日)、リハ病院3階東病棟で開催し、ロールケーキが新作の『カレー会議』を、電柱が古典の『桃太郎』を演じました。

なかなか脚本が頭に入らず、本当に患者さんに楽しんでもらえるのか…不安でいっぱいでしたが、いざ高座に上がり、集まっていた患者さんの温かい笑顔を見ると、緊張感はどこかへ飛んで行きました。ネタを始めると、たくさんの患者さんの笑顔・笑顔…最後にはおひねりも飛んでくるほどの盛況でした。

近森亭はまだまだ生まれたばかりの若い一門ですが、今回高座で患者さんの笑顔を見て、病棟での落語会開催について大きな可能性を感じました。これからも定期的に病棟での高座を開催して行きたいと思っています。

もしご要望がございましたら、どの病棟にも参りますので声をかけてください。次回もお楽しみに♡。(近森リハ病院 理学療法士 中谷知生)



左に電柱(PT中谷)

右はロールケーキ(PT中山明日香)

お知らせ

第52回地域医療講演会
平成20年6月21日(土)13:00～
高知市文化プラザかるぼーと・大ホール
「聞いてみませんか?今どき、これからのメンタルリハビリテーション」
～統合失調症について～
講師 国立精神・神経センター
菊池安希子先生

第53回地域医療講演会
2008年7月18日(金)18:30～
場所:近森病院管理棟5階会議室
「地域医療における病診病連携
—市立静岡病院心臓血管外科の経験」
講師 静岡市立静岡病院病院長 島本光臣先生

第54回地域医療講演会
2008年7月31日(木)18:30～
場所:ホテルサンルート高知
「感染症診断の原則」
講師 感染症コンサルタント 青木真先生

薬用酒アラカルト⑲

ラ・フランス酒



※日本の洋梨の代表ともいえるラ・フランスは1864年(幕末頃)にフランスで発見された品種だとか。

高貴な香りと上品な味わい、あふれる果汁、クリーミーな果肉、今回は果物の女王といわれるラ・フランスをお酒にしました。

<材料> (密閉容器1リットル分)

ラ・フランス 500g。

ホワイトリカー 500ml

<作り方> ①表面をさっと水洗いして水気をふき取る。②容器に合わせて適当な大きさに切って入れ、ホワイトリカーを注ぐ。③20日ほどで飲めるようになる。熟成させれば良質のリキュールになる。

ラ・フランスの果肉が持つ豊富な水分は、髪の毛や肌、爪などに潤いを与え、身体にたまった過剰な熱を冷まし、喉や気管を潤し、咳や扁桃腺などの痛みを抑え、不足した体液を補う大切な役目を果たします。ラ・フランス酒はビタミンB、ビタミンCをたっぷり含んでいる他、リンゴ酸、クエン酸なども含んでいるため、疲労回復や食欲増進にも効果があるといわれています。

漬け込んでから約2カ月後、恒例のひろっば編集委員による試飲会を行いました。芳しい香り漂う琥珀色一杯、編集委員からは、「上品でまろやかな天然の甘さ」、「豊潤な香り」、「きれいなグラスでいただきたいお酒」など、絶賛の声。ストローやロックで香りを楽しみながら、また炭酸で割ってさわやかに。食前酒として食後酒として、優雅な気分させてくれるおすすめのお酒です。(文と画 薬剤部 嶋崎ユリカ)

近森病院と私

私が近森病院を初めて知ったのは小学生の時でした。毎日近森病院の側を通学していたのです。あの時は将来自分が近森病院で働くなんて想像もしていませんでした。

時が流れて高知医大4年生。その間自分の家族が何度かお世話になったため近森病院にたびたび来院させていただいたのですが、この時も患者側からみていただけでした。そんな中初めて医療者側から近森病院をみたのは5年次ポリクリ実習の時でした。

最初に感じたのは『かっこいい』という漠然とした印象でした。実習では半日しかいなかったため、憧れを抱いた明確な根拠が曖昧でした。しかし病院見学に来るたびに自分が近森病院に憧れた理由が明確になりました。強固なチーム医療、効率的



初期研修医
濱田 佳寿

で高水準な医療の提供、地域に密着した医療体制 etc…。まさしく『早い、安い、うまい』です。

そして現在、念願の近森病院で研修することになり期待に満ちています。医師として自分に足りない知識や技術、精神面の強さなどを叩き込んでいただきたいと思います。どうか御指導のほどよろしくお願ひします。

リレーエッセイ

季節外れの新高梨

医事課 森岡 直子

▼梨の花



梨園で1歳10カ月の寛之と



皆さんは「まるはり」という名前の果物をご存じですか?

「まるはり」は、新高梨のなかでも樹齢20年以上の樹から収穫できた実を、新高梨マイスターが厳選して選んだ品だけにつけられます。

高いものになると1個2,500円~3,000円くらいするようです。2年ほど前から高知県特産の新高梨がブランド化され、都会のデパートなどで売り出されるようになり、「針木の新高梨」が県外でも知られるようになりました。

私の母の実家は針木にあり、伯父が新高梨を作っています。去年から新高梨マイスターに認定され、「まるはり」を出荷しています。

数年前に亡くなった祖父が梨づくりを始め、私も中学校の夏休みは自転車で40分かけて針木へ行き、作

業を手伝っては梨の木の下で祖母とお弁当を食べた思い出があります。4月は梨の花が咲く時期で、桜に似た白い花がたくさん咲きます。お弁当と敷物を持ってお花見に来られる方もいるようです。しかし作るほうにとっては梨の受粉が始まり、全て手で一つ一つ受粉させるため大変な時期のようです。

毎年秋になると子供をつれて毎週のように母の実家へ行き、県外の友人に送る梨を選んだり美味しい梨をたらふく食べさせてもらっています。帰りには叔母がハネ(傷梨)をたくさん持たせてくれ、しばらくデザートは梨三昧です。

高知県を代表する果物の一つとして、これからも畑を守っていてもらいたいですね。私は食べる専門ですが……。

近森会グループ 写真展のお知らせ



会期は 7/7 ~ 11
 テーマ：近森会グループの
 行事に関する写真(職員旅行、
 運動会、スポーツ大会、ク
 ラブ活動、忘年会など)
 ※各賞あり。詳しくはお近くの
 掲示やチラシをご覧ください。

応募の締め切りは 6月 10日
 主催：近森会グループコミュニケーション委員会
 協賛：近森写真倶楽部「瞬」



近森会グループ	
外来患者数	17,515 人
新入院患者数	784 人
退院患者数	826 人
近森病院	
平均在院日数	14.62 日
地域医療支援病院紹介率	86.60 %
救急車搬入件数	466 件
うち入院件数	229 件
手術件数	385 件
うち手術室実施	244 件
うち全身麻酔件数	146 件

2008年
4月の診療数

企画情報室

● 6月の歳時記 ●

あじさい

文と画 近森リハ病院 言語療法科

横島 史佳

あじさいは、6月のじめじめした時期に小さな花がたくさん集まって咲いている美しい花です。花びらのように見えるのは、実は『がく』で、つぼみのときに花びらを包んでいた部分です。本当の花は、『がく』の中心にあります。いま一般的に親しまれているあじさいは、日本の山などで自生する、『がくあじさい』が、ヨーロッパで品種改良されて、より美しくなつて帰ってきたものだそうです。花言葉は『移り気、乙女の愛』です。



編集室 通信

▼毎号誌面のやり繰りに苦勞する記事の賑やかさで、最後に残った数行を埋めるための通信欄では本来の役割が果たせませんが、今号、図書室便りも入れられません。(乙女)